



報告

平成20年度論文賞の 受賞論文紹介

編集に
あたって

喜連川 優

論文賞委員会委員長／東京大学

柴山 悦哉

論文誌ジャーナル平成20年度編集委員会委員長／東京大学

伊藤 実

論文誌 数理モデル化と応用編集委員会委員長／奈良先端科学技術大学院大学

朴 泰祐

論文誌 コンピューティングシステム平成20年度編集委員会委員長／筑波大学

平成20年度論文賞受賞論文の著者による各1ページの紹介記事を以降のページに掲載する。論文賞に選定されるのは、論文誌に掲載された論文約50編に1編が目安とされており、当然、レベルの高い研究成果が揃っている。また、各受賞論文からキーワードを1つだけ適当に抜き出して並べると、「折り紙」、「ロボット」、「将棋」、「フィッシング」、「名前管理」、「生体認証」、「モバイルアドホックネットワーク」、「協調フィルタリング」、「仮想マシン」となる。これをご覧いただくだけでカバーする研究分野の広さを感じることができるだろう。ようするに、次ページ以降の9ページをご一読いただければ、情報処理にかかわる広範な領域で展開される先端研究の一端に触れることができるのである。しかも、論文には書いてない著者の想いや本音も含まれている。極論すれば、情報処理学会の1年間の研究活動のエッセンスをわずか9ページに詰め込んだのがこの紹介記事である。ぜひご一読いただきたい。

以下では受賞論文の選定過程について報告する。論文賞の選定方式は今回から大きく変わった。従来は、論文賞委員会の委員長を論文誌ジャーナルの編集委員長（理事）が兼ね、情報処理学会論文誌（論文誌ジャーナル、論文誌トランザクションの全誌）に1年間に掲載された論文をまとめて選定対象としていた。各論文誌は独立した編集体制を持ち、一般には多様な価値観を持つことが期待されているが、論文賞の選定に関する限り、一体化した組織体制で行われていたことになる。一方、平成20年度からは、論文賞委員会の委員長を学会論文誌運営委員会委員長（副会長）が兼ね、論文賞委員会がワーキンググループを論文誌ごとに組織して選定を行う体制となった。これにともない、論文賞の名称も次の通り掲載誌ごとに異なるようになった。

- ・ジャーナル「情報処理学会論文賞」
- ・JIP「Journal of Information Processing Outstanding Paper Award」
- ・トランザクション「情報処理学会論文誌〈誌名〉優秀論文賞」、「IPSJ Transactions on〈誌名〉Outstanding Paper Award」

1998年12月に論文誌トランザクションの最初の号が創刊されてから約10年が経過し、論文誌トランザクションの各誌が論文誌ジャーナルから独立して論文賞を選定できる体制がようやく整ったと言えるだろう。

平成20年度論文賞の対象となったのは、平成19年10月から平成20年9月までの間に論文誌ジャーナル、Journal of Information Processing、論文誌トランザクション7誌（論文誌 プログラミング、論文誌 数理モデル化と応用、論文誌 データベース、論文誌 コンピュータビジョンとイメージメディア、論文誌 コンピューティングシステム、Transactions on Bioinformatics、Transactions on System LSI Design Methodology）に掲載された計578編の論文である。このうち、実際に選定を行ったのは論文誌ジャーナル、論文誌 数理モデル化と応用、論文誌 コンピューティングシステムの3誌であり、これらに掲載された444編の論文が実質的な選定対象である。選定にあたっては、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続きに基づき、論文賞委員会による厳正な審査が行われた。その結果、9編の受賞候補論文が選定され、理事会の承認を得てこれらすべての受賞が決定した。残りの6誌については、対象論文が50編に満たなかったため、表彰規程第11条に基づき、平成20年度の対象論文を平成21年度以降の論文賞の対象論文として持ち越すことになった。なお、受賞論文の著者には、第53回通常総会において表彰状、賞牌および賞金が授与された。

（平成21年6月10日）